

### ごあいさつ

研究推進部長 丹生 憲一

柏原高校は文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けて2年目に入ります。昨年度、事業の指定を受け、韓国、カンボジアに加えてアメリカ研修を始めました。また、校外の各発表会に参加し、全国大会でも入賞を果たしています。昨年度末から、コロナウィルス感染防止のため休校が続き、先行きの見えない年度初めとなりました。「答えのない課題に取り組む」と言っている以上は、これも新しく与えられた問いだと捉えて邁進したいものです。

研究推進部通信「**K★ing**（キング）」では、本校で取り組んでいる教育内容を、校内外の皆さんに公開すると同時に、生徒達の授業での様子、教職員の声を紹介します。**K★ing**は「Kaibara」の**K**に、進行形を作る現在分詞の**ing**を組み合わせました。その間の★は「Super Star」。今まさに進行中の柏原高校の取組が、将来の新星・巨星を育てていく様子をご覧ください。

### 「総合的な探究の時間」が「丹BAL」に生まれ変わります

「翔び立て柏高！丹波から TAMBA へ」「地域課題から世界を考える」というキャッチフレーズが定着してきました。

昨年度まで「探究」は「私たちの暮らす丹波地域の抱える課題をどのように解決するか」、「総合」は「自分の生き方を考える」ということを念頭に置いて取り組んでまいりました。地域の方々のご協力のもと、活動内容も系統化されてきています。

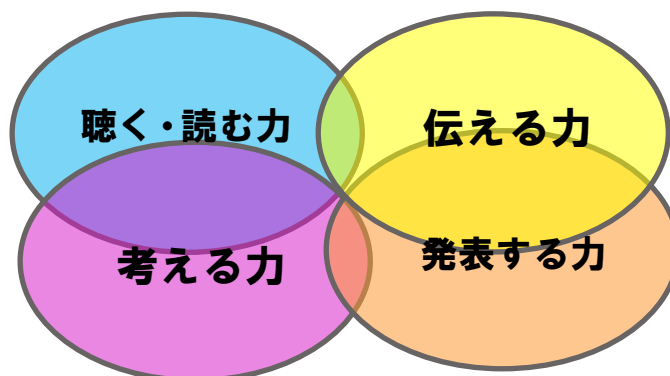
しかし、「探究」では地域課題に目を向けるあまり、ネガティブな見方しかできなくなるのではないかと懸念が生じてきました。今年は視点を改めて「地域の魅力を発見して、全国・世界に発信する」ということを狙いにします。このテーマに全クラスで取り組み、高校生としてできることを考え、地域に貢献していくつもりです。歴史・地域・世界に目を向けることで、自分の置かれている立ち位置を再確認し、どんな生き方をしていくのかを考える機会にしてもらえたらと思っています。

普通クラスの人たちは、自分の選んだテーマに基づいて、地域で活動し、魅力を発信していきます。これは2年生に進んで「台湾学習」を進める際も、「海外に魅力を発信する・柏原高校を紹介する」という形で引き継がれます。知の探究コースの人たちは、「課題研究メソッド Start Book」というテキストを使用し、具体的に問いを立て「自分の研究がどのように地域に貢献できるのか」を考えながら、探究活動を進めます。そして、地域で考えた内容を世界的な視点で見直し、海外の教育協力校と共同研究へと進めていければ…というのが、現段階の構想です。

これを「丹BAL」という科目にしました。「丹波（地域：Local）+（Glo）bal」、「丹波る（動詞化）」、「Be A Leader」、「Best Achievement Learning」と、教職員の多様な想いがこめられています。

丹波ろう！

### <丹BALで育みたい力>



\* 本年度、研究推進部は丹生憲一、土元優一、吉田究の三人が務めます。

\* 本日、海外研修・国際交流報告のパンフレットを配布します。本校の取り組みの一部をご覧ください。